

岡田寛の香川新音楽事情 15

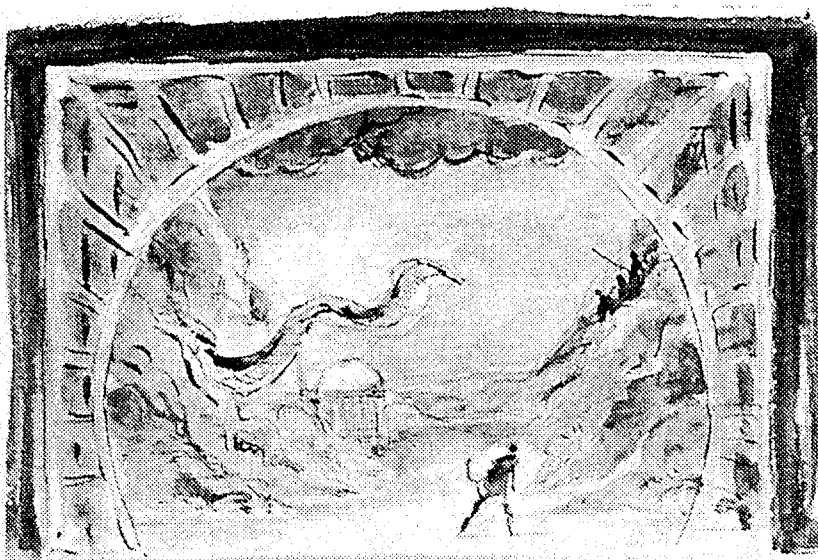


香川日唄協会の確かな試み①

今年のウィーン最新情報

「グリユース・ゴット」とたら大間違い。誇り高きオーストリアの北にあるだけさ、とハプスブルク栄光の歴史を背負うウィーンの人達は屈託がない。現在のドイツ国歌だってハイドンの作曲ではないか、と胸を張るウィーンっ子には、つい拍手を贈りたくなるボクだ。

「グリユース・ゴット」というのが公式。親しい仲間は「セアウス」。これがオーストリアの挨拶だ。独語だから何でも「グーテン・タッグ」と思っ



YANNIS KOKKOS(ヤニス・ココス)による、オペラ「魔笛」第一幕冒頭の舞台装置のスケッチ

あるが、なにドイツがオーストリアの北にあるだけさ、とハプスブルク栄光の歴史を背負うウィーンの人達は屈託がない。現在のドイツ国歌だってハイドンの作曲ではないか、と胸を張るウィーンっ子には、つい拍手を贈りたくなるボクだ。

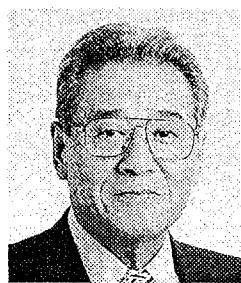
毎年十二月―二月は、クリスマスと正月を除いて世界の航空運賃が最も安い時期。日本も寒くてヒマだ。こんなときこそ世界一流の芸術文化をゆっくり堪能すべきだと考えたわが香川日唄協会(会長・三宅洋三)は、去年からの時期、会員に限って格安ウィーンツアーを計画した。協会事務局長でもある日唄航空高松支店長猪股伸夫のナイスマン。渡航二百五十回、名古屋での欧州通として知られる。

もとほと言えば一九九六年、関空とウィーン・シユベヒャート空港を結んだ全日空とオーストリア航空共同運行直行便就航がきっかけでオーストリアを視察したボク達の感動が発展して翌年発足した日唄協会だ。例年ハイドン音楽祭も訪ねる九月旅行の他に気ままな芸術鑑賞で真冬のウィーン詣でもいいね、と話が進み、去年に続いて今年も

歌劇、室内楽…多彩な選択肢

一月末の一週間、生憎の風邪をおしてボクも出かけた。前回の訪唄から四か月というのにウィーンははつきり様変わりしていた。全てはEU、ユーロ経済のせい。実際に貨幣が流通するのは三年後だが取引決済開始の影響は少なくない。メニューは全てユーロ価格を併記、公共交通全線七十二時間フリーパスもいきなり二十分値上げし

三宅洋三さん



よえるオランダ人」など。室内楽はハーゲン、バルトック、アルバンベルク一流弦楽四重奏団揃いぶみ。ウィーン放送交響楽団「田園交響曲」他という豪華で多彩な選択肢に驚き迷う。情報も切符も全て事前入手。ホテル四泊。ボクは今回、昼間は美術史美術館でルーベンスとプリュゲルに夢中。むろん連夜の音楽会は幕間のワインで至福のひと刻。

て百五十分。一分は十円。もっともこの国自慢の新鮮な農作物はEU各地の安い産品流入でかなりな影響を受けるのは必至。低所得者層の購買動向は無視出来ないからだ。

だが芸術文化は相変わらず健在。一月二十六日から二十九日の四夜、国立歌劇場やフォルクスオパーで「魔笛」「シチリア島の夕べの祈り」「カルメン」「ギス・ミー・ケイト」「さま

猪股伸夫さん



これが東京で海外オペラを見て一杯やる程度の費用でOKなのだからたまらない。時と場所を選べば、地域に住んでいてもホンモノ志向は可能だ。常に一流芸術を肌で感じる人々が増えてくると、地方の似て非なる文化は存在理由を失う。香川も早くそうならないかな、という期待でボクのウィーン詣でも二十回を超えた。

(文中敬称略)

ユーロ導入入でも芸術文化は健在